

## Happy Celebration interview

# 家族に見守られながら 続けた遠距離交際を 実らせて結婚しました

## 瀬戸優佳さん

女子飛込競技で活躍してきた馬淵優佳さんと、競泳でリオ五輪で銅メダルをとった競泳の瀬戸大也さんが、2017年10月に結婚式を挙げました。アスリートとして頑張りながら恋を育んだ日々、そして大勢の人に祝福された結婚式について、赤ちゃんを授かり、幸せな結婚生活を送る優佳さんに語っていただきました。

文●原 智子

日々競技に集中しながら  
遠距離恋愛を続けました

初めて夫と会ったのは2014年。宝塚で競泳の試合があったときに知り合いの飛込選手から「瀬戸選手と一緒にご飯にいこう」と誘われたんです。夫も私も、子どもの頃から同じスイミングスクールに所属してい

たんですが、彼は小学6年のときにスクール内の選手を紹介したパンフレットで私の写真を見て以来、気になっっていたそうです（笑）。会うまでは、夫に対してちょっとチャライ印象がありました。競泳はとても華やかな世界で、そのトップクラスの選手ですから、いつも注目され、派手な印象があったのです。

でも、実際に話してみると違いました。とても無邪気で素直でポジティブ。そして表裏がないんです。しばらくして遠距離交際を始めました。当時はお互い大学生で、ほぼ毎日練習もあり、デートする時間は1か月に1回。それを楽しみに練習を頑張りました。会いに行くには泊まらないといけないので、「親御さんが心配するだろう」と夫がすぐに私の両親に会い、「まじめに交際しています」と挨拶してくれました。私もお夫のご両親にご挨拶し、その後はお互いの家に泊まることが多くなりま

したね。夫が我が家に泊まる時には、父と一緒によくお酒を飲んでました。私の場合、父がコーチだったので、デート前日の練習時間を早めてもらったことも。家族や周囲に見守られていましたね。結婚に気持ちがあかったのは、16年のリオ五輪の直後。大学卒業後の進路について話していたら、夫が「もう結婚したいな」と言っただんです。私も直感的に「今だ」と思いました。東京五輪が終わるまで待つ選択肢もありましたが、遠距離恋愛を2年半続けて、楽しい中にもつらい経験も



お二人をかたどった砂糖菓子の上のウエディングケーキは、ゲストにも好評。



ありました。それをあと4年続けるのは厳しいと思ったのです。父には「早いな!」と驚かれましたけれどね(笑)。

**応援してくださった方たちを結婚式に大勢お招きしました**

結婚式は17年10月に東京の式場で

挙げました。応援していただいた多くの方をお招きしなかったんです。アスリートも大勢お招きしていたので、一番こだわったのは料理。食べる量も普通の方より多いし、世界各地でおいしいものを食べている方も多いので、全部のコースを二人で試食して、点数をつけて満足していただけのものを選びました。

ウエディングドレスは、夫には結婚式当日まで見せませんでした。日本では彼と一緒に決める方が多いですけど、私は試着時に横で「え、これはちよつと……」などと言われなくなかったので、姉についてきてもらいました(笑)。選んだのはインポートもののシンプルなドレスです。装飾はほとんどないので、シルエツトがとてきれいで、見た瞬間にこれだと思いました。

披露宴では競泳選手の萩野公介さんのスピーチや、メジャーリーガーの大谷翔平さんからのビデオメッセージなど、多くの方からお祝いの言葉をいただき、とても盛り上がりました。夫の幅広い交友関係もわかってよかったです。

一緒に暮らし始めて赤ちゃんも授かり、今は楽しい毎日です。料理

は勉強中。レポートリーが少しないし、自分が作ったものがおいしいのかおいしくないのかよくわかりません(笑)。夫はおいしいと言ってくれますが「本当?」という感じ。両親が中国出身なので中華も作りますが、母のレシピを教えてもらい作っていますが、母の味には全然かきません。子どもにも栄養のあるおいしいご飯を食べさせたいから、頑張ります。春巻と餃子は母のように作れるようになりたいですね。



**せと ゆか 瀬戸優佳さん**

1995年兵庫県出身。立命館大学スポーツ健康科学部卒業。3歳から水泳を始め、6歳から飛込競技を始める。中学3年以降は全日本ナショナルチームヘッドコーチを務めた父・馬淵崇英氏の指導を受けてきた。2009年日本選手権の3メートル板飛び込みで2位、東アジア大会でも同種目で銅メダルを獲得。12年、インターハイの板飛び込みで3連覇を果たす。リオ五輪銅メダリストの競泳選手の瀬戸大也氏と17年5月入籍。同年10月1日に結婚式を挙げた。